

# 週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

## 伊勢あさくさ海苔が出品される —1 月 29 日(金) 松阪にて—

1 月 29 日 (金)、松阪のり流通センターにおいて、黒のりの第 4 回共販が開催され、県産アサクサノリが出品された。

アサクサノリの養殖試験は今年度で 3 年目となり、昨年 10 月から桑名～二見の 24 名の生産者が養殖試験を実施し、遺伝子検査と今年度より追加された食味評価の両方の基準を満たした 4 名 (伊曾島漁協と城南漁協、いずれも桑名市) の海苔 39,000 枚が出品されたが、今漁期の当初はエルニーニョ現象の影響等で冬場の水温が高い日が続き、アサクサノリは特に高水温に敏感なことから例年以上に苦労を強いられた生産者が多く、昨年度の 183,200 枚と比べて大きく減った。入札の結果、伊曾島漁協 等級：浅〇 (マル) 優 (数量：6,700 枚) が 12,019 円 (海苔 100 枚当たり) の最高値をつけ、昨年の 8,510 円を上回り、落札価格が入札会場の画面に表示されると、会場から歓声が上がった。他のアサクサノリも等級ごとにそれぞれ落札され、アサクサノリ全体の平均単価は 9,870 円となった。



説明を聞く仲買業者



入札会場

## 第 28 回農山漁村のつどい —2 月 2 日(火)津市にて—

2 月 2 日 (火)、津市の三重県総合文化センターにおいて、第 28 回農山漁村のつどいが開催された。

このつどいは、農山漁村のよさを活かした地域づくりや、農林水産業の振興に男女が協働して取り組み、ともにかがやく新しい農山漁村社会のあり方を学ぶことを目的

としている。

午前中に生産者自慢の農林水産品（加工品）の紹介、続いて「体を動かして「学ぶ」「働く」「暮らす」事例報告」があり、水産業代表として、三重外湾漁協の志島で実施されている畔志賀漁師塾出身で、海士、刺網を営む山内和氏が発表を行った。漁師塾での活動、自身の経歴等について、参加者から笑いを取りながら話し、会場は終始和やかな雰囲気包まれた。

午後からは「共感でつながる作る人と食べる人 世なおしは食なおし～食べる通信の挑戦～」の演題で、特定非営利活動法人・東北開墾の代表理事 高橋博之氏による講演が行われた。

同会場で開催された即売会では、風の島加工場（鳥羽市菅島町）がアカモク、サメの干物を出品し、好評のうちに完売となった。



事例報告

**水産庁が養殖魚受給検討会を開催  
2016 年漁期ガイドライン案の大枠了承**

水産庁は 1 月 29 日（金）、同庁で「養殖魚受給検討会」を開き、2016 年漁期のブリ・カンパチ及びマダイの養殖生産数量ガイドライン案の大枠について了承した。生

産目標数量は、ブリ及びカンパチが合計 14 万トン、マダイは 7 万 2 千トンで前年と同数量。活込み数量の算定方法は、2006～2010 年の種苗投入尾数の最大値と最小値を除いた 3 年間（5 中 3）の平均値を基準として、ブリとカンパチは 10%削減。マダイは基準値からの削減は必要ないとした。（全漁連情報）

**新規漁業就業者・座学研修  
—1 月 30 日(土)河芸にて—**

1 月 30 日（土）、河芸において、新規漁業就業者・座学研修が開催され、7 名の新規就業（予定）者が出席した。

この座学研修会は、国の地域創生人材育成事業の一環として三重県が実施する漁業の担い手人材育成・確保事業を、三重県漁連が受託し実施しているもので、今回は「漁港漁場整備」、「漁業に必要な資格」の 2 つの講座が開催され、参加者は皆、熱心に耳を傾けていた。

今後、3 月までに 7 つの講座の開催が予定されている。



熱心に講義を受ける参加者

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。